Y-TEC Tsumugi Drive 操作マニュアル

English | 日本語

- **対象版:** 1.0.0-internal-beta
- **文書区分:** ソース再公開版・開発版の隔離評価用
- **基準仕様:** DiskClone_Development_Spec.md v2.0
- **最終更新:** 2026-09-29

今回の再公開範囲はソースコードと文書です。製品ZIP・EXEの一般配布は保留中で、 正式版1.0.0の公開や代表実機受入の完了を意味しません。

- 公開紹介ページ: https://ytec.cloudfree.jp/forge/projects/tsumugi-drive/
- ソースコード再公開先: https://github.com/ytec-forge-commits/ytec-disk-clone
- お問い合わせ: https://ytec.cloudfree.jp/forge/contact/

旧ZIP、EXE、PDFは今回の配布物として流用しません。 2026-08-28の候補監査は過去の証跡であり、今回の候補の検証結果ではありません。

本書の操作説明は開発版を隔離環境で評価する際の参考です。公開ソースだけを入手しても、 署名済み公式アプリ、検証済みレスキューメディア、実機対応の保証は含まれません。 今回固定したソースの画面は日本語です。英語マニュアル中の画面名は説明用の訳であり、 未コミットの英語UI・アイコン変更は今回の固定ソースへ含めていません。

> **WARNING** この版は正式版ではありません。代表実機試験、公開用配布監査、コード署名、 ADK未導入クリーン環境の受入などが完了していません。重要データ、業務端末、 日常業務、唯一のバックアップその他の実運用には使用しないでください。 隔離した試験環境と、消去してよい試験専用媒体だけで評価してください。

本製品はY-TEC名義で個人開発するオープンソースソフトウェアです。 1.0.0-internal-betaは現時点の開発識別子であり、正式版1.0.0、一般公開済み バイナリ、代表実機合格済み、またはサポート対象版を意味しません。

1. 評価を始める前に

1.1 必ず用意するもの

- 消去してよい試験専用のコピー先、復元先、またはUSB。
- 対象とは別の媒体に置いた、復旧できることを確認済みのバックアップ。
- AC電源。バッテリー使用時は画面の追加警告に従ってください。
- Windows 10 22H2 x64またはWindows 11 x64の隔離した試験環境。過去のWindows 10 22H2／Windows 11 25H2のVM結果は履歴証跡であり、今回の候補の対応確認ではありません。 Windows 11 24H2 x64を含め、今回の再公開作業ではOS互換性を新たに保証しません。
- レスキューメディアを作る場合は、検証対象版のWindows ADK、WinPE Add-on、 必須Servicing Updateを導入できる正規ライセンス環境。

次の対象には使用しません。

- 失うことのできない実データ、業務データ、顧客データ。
- 動的ディスク、LDM、Storage Spaces、WindowsソフトウェアRAID、解析不能な構成。
- USBメモリをクローン先、復元先、救出先として使う操作。USB接続HDD／SSDとは 区別してください。
- GPTからMBRへの変換、クラウド保存、ネットワーク共有へのイメージ保存。

- BitLocker、Secure Boot、UAC、Windowsライセンス認証の回避。

1.2 ZIPのSHA-256を確認する

以下は、別途承認された評価用Portable候補を受け取った場合の確認手順です。 今回のソース再公開で製品ZIPを提供することを意味しません。

1. Portable ZIPと、同じ名前に.sha256が付いた外部SHA-256ファイルを同じ フォルダーへ置きます。
2. PowerShellを開き、次を実行します。パスは実際の候補名へ置き換えてください。

```
$zip = Resolve-Path '.\Y-TEC-Tsumugi-Drive-1.0.0-internal-beta.zip'
$actual = (Get-FileHash -LiteralPath $zip -Algorithm SHA256).Hash
$expected = ((Get-Content -Raw -LiteralPath ($zip.Path + '.sha256')).Trim() -split '\s+')[0]
$actual
$expected
$actual -ceq $expected
```

3. 最後がTrueであること、さらに公認された受渡し元に掲載されたSHA-256とも 完全一致することを確認します。1文字でも異なる場合は展開・実行しません。

1.3 展開後のEXEと内部SHA-256を確認する

1. ZIP内から直接起動せず、新しい通常のローカルフォルダーへ全体を展開します。
2. 展開先で、SHA256SUMS.txtのytec-tsumugi-drive.exe行と実ファイルを比較します。

```
$exe = Resolve-Path '.\ytec-tsumugi-drive.exe'
$actual = (Get-FileHash -LiteralPath $exe -Algorithm SHA256).Hash
$matchingLines = @(Get-Content -LiteralPath '.\SHA256SUMS.txt' |
  Where-Object { $_ -cmatch ' \*ytec-tsumugi-drive\.exe$' })
if ($matchingLines.Count -ne 1) { throw 'EXEのSHA-256行が一意ではありません。' }
$expected = ($matchingLines[0] -split '\s+')[0]
$actual
$expected
if ($actual -cne $expected) { throw 'EXEのSHA-256が一致しません。' }
'EXE_SHA256_OK'
```

3. EXE_SHA256_OKにならない場合は実行しません。外部ZIPのSHA-256はアーカイブ全体を、 この確認は実際に起動するEXEを照合します。

1.4 Authenticode、SmartScreen、UAC

署名状態は次で確認します。

```
Get-AuthenticodeSignature -LiteralPath '.\ytec-tsumugi-drive.exe' |
  Format-List Status, StatusMessage, SignerCertificate
```

2026-08-28の過去候補はNotSignedでした。その旧候補は今回再配布しません。 本書は現在の署名サービス申請状況を示すものではありません。将来の公式直接配布では、 実際の最終EXEの署名方式・検証結果・SHA-256を配布元で確認してください。 未署名または自己署名のEXEでは、UACの発行元表示やMicrosoft Defender SmartScreenの警告が表示される場合があります。自己署名はMicrosoftや商用CAの信頼を意味せず、 警告の回避を保証しません。

- HashMismatch、UnknownError、想定外の署名者を確認した場合は実行しません。
- SmartScreen、UAC、Secure Boot、ウイルス対策を全体設定で無効化しません。
- 承認された隔離評価で、ZIPとEXEのSHA-256を照合済みの場合だけ、対象名と配布元を 再確認して個別実行を判断します。
- Windows版は起動時に管理者権限を要求します。UACではファイル名と展開先を確認し、 意図したEXEでなければ拒否します。通常の製品操作中に追加UACを要求しません。

1.5 Portableデータ

- 永続設定、初回安全ガイドの確認状態、ログ、中断情報はEXE隣のdataだけへ保存します。
- AppData、クラウド、ネットワークへ自動退避しません。更新時はdata全体を残します。
- .tsumugiと隣接.partialはdata内へ保存しません。
- 書込み操作の開始前に、dataが通常の非reparseフォルダーであることと、必要な 書込み・flush・読戻し・削除を確認します。安全に使えない場合は診断専用で停止します。
- dataの物理ディスクがコピー元またはコピー先と安全に分離できない場合、診断ログを そのセッションだけ有界RAMへ隔離することがあります。AppDataへは退避しません。

2. 全操作に共通する安全確認

1 ディスク番号だけで判断せず、モデル、容量、接続方式、GPT／MBR、シリアル末尾、 パーティション図、Windows／データ／USB表示を照合します。

2 コピー元とコピー先が別の物理ディスクであることを確認します。

3 画面に表示された消去範囲、保存先、処理方式、検証方式を読みます。

4 破壊的操作では確認チェックを入れ、確認語を半角大文字のOKで入力します。 ok、全角ＯＫ、前後に空白がある入力では開始しません。

5 実行直前の再識別に失敗した場合は、接続し直して自動継続せず、選択からやり直します。

6 完了画面が出るまで、対象を取り外したりアプリを強制終了したりしません。

失敗、取消、欠損、未検証は成功として表示されません。処理開始後に停止したコピー先や 復元先は、未完成またはofflineのまま保護される場合があります。原因を確認せずonline化、 フォーマット、再試行を行わないでください。

コピー元の意味

- Windows版はアプリ自身からコピー元へ書き込みません。ただし、稼働中Windowsと VSSによる通常の書込みは続くため、物理的な完全無変更ではありません。
- WinPE版はコピー元をOSレベルでもread-onlyに固定します。完全な物理無変更が必要な 試験ではWinPE版を使用します。
- 安定識別、read-only状態、Snapshotと物理領域の対応を証明できない場合は開始しません。

3. Windows版の操作

ytec-tsumugi-drive.exeを起動すると、左側に次の6画面があります。

1 ドライブをクローン

2 イメージを作成

3 イメージを復元

4 起動を修復

5 レスキューメディア

6 ログ・診断

起動直後のディスク列挙は読取り専用です。選択肢が不明、健康状態が異常、対象が USBメモリ、またはレイアウトが未対応の場合は安全確認へ進めません。

3.1 ドライブをクローン

1 「ドライブをクローン」を開きます。

2 コピー元と、全内容を消去してよいコピー先を選びます。

3 方式を選びます。

- **通常モード（完全複製）：**ディスク全体を同じ論理セクター構成の同容量以上へ 複製します。パーティション形式は維持します。
- **縮小移行モード（小容量へ）：**コピー元を縮小せず、コピー先だけへ小さい レイアウトを再構成します。
- **救出モード（データディスク）：**Windows版では、既にread-onlyまたはofflineの 非システムデータディスクだけを扱います。512バイト論理セクター、同容量以上の コピー先が必要で、縮小や形式変換は行いません。

4 縮小移行では、必要に応じてパーティション形式の「維持」または、適格なMBR システムディスクの「MBR→GPT」を選びます。

5 縮小移行の「パーティション・容量設定…」を開き、コピーする領域と余剰容量の 配分を確認します。Windows起動に必要と判定された領域は解除できません。

6 「安全確認へ」を押し、読取り専用解析、電源警告、対象要約を確認します。

7 最終画面で対象と消去内容を再確認し、大文字OKを入力して開始します。

8 進捗、VSS、読戻し、最終検証の結果が表示されるまで待ちます。

通常・縮小のシステムクローンはVSS開始時点の内容です。完了後の「検証完了・換装待ち」 は、書込みと読戻しが完了したことを示し、換装後の起動成功を保証しません。コピー先は offlineのまま保持されます。

救出結果は、読取不能範囲が0件でも「一部欠損の可能性あり」です。欠損範囲はゼロ埋め され、通常成功へ読み替えません。

3.2 イメージを作成

1 「イメージを作成」を開き、作成元ディスクを選びます。

2 方式を選びます。

- **通常:** ディスク全体を単一.tsumugiへ保存します。
- **縮小移行:** NTFS内容をVSSから取り込み、静的システム領域をexact RAWで保持します。
- **救出:** 既に保護された非システムデータディスクを所有一時領域へ一度だけ救出し、 封印した一時領域から.tsumugiを作ります。

3 作成後検証を選びます。

- **完全（推奨）：**各書込み読戻し、認証・Hash、最終メタデータ検証に加え、 完成前の追加全走査を行います。
- **高速:** 上記の必須検証を維持し、完成前の追加全走査だけを省略します。

4 「保存先を選ぶ」を押し、コピー元と別の物理ディスクにあるNTFSまたはexFATの 新しいファイル名を指定します。既存完成ファイルは上書きしません。

5 必要な場合だけ暗号化を選び、同じパスワードを2回入力します。回復キーはなく、 パスワードを失うと復元できません。

6 電源状態、作成元、モード、検証方法、暗号化、保存先を確認して開始します。

7 隣接.partialへの作成、検証、VSS後始末、保存先再識別が完了した場合だけ 完成.tsumugi名が確定します。

現在のWindows版イメージ作成画面はディスク全体を対象にします。任意のパーティション だけを選んで作成する入口は、この公開前検証候補のWindows製品UIにはありません。 また、Windows縮小作成は現在、BitLocker、exFAT、FAT32の内容領域を開始前に拒否します。

3.3 イメージを復元

1 「イメージを復元」を開き、「イメージを選ぶ」から既存の単一.tsumugiを選びます。

2 暗号化されている場合はパスワードを入力します。

3 アプリが同じ読取りハンドルでイメージ全体を完全検証するまで待ちます。作成時に 高速検証を選んだイメージでも、復元前は必ず完全検証します。

4 復元範囲を選びます。

- **ディスク全体:** 復元先ディスク全体を上書きします。
- **個別パーティション:** 画像内の1区画を、既存区画または安全に確定した未割当 領域へ復元します。
- **縮小.tsumugi:** ディスク全体だけを復元します。個別パーティションは 選べません。

5 復元先を選びます。現在起動中のWindowsシステムディスクは選べません。その場合は WinPEでイメージと対象を改めて選択します。隠れた予約ジョブは作成しません。

6 自動バックアップがないこと、上書き範囲、対象要約を確認し、大文字OKを入力します。

7 読戻しと最終commitが完了するまで待ちます。

縮小.tsumugiの全体復元では、WIM staging、checkpoint、ログを、イメージ保存ディスクと 復元先のどちらでもない第三の安全なローカルディスクへ置ける場合だけ開始します。 Windowsを含む復元後は、必要に応じてWinPEの「起動を修復」を別操作として実行します。

3.4 起動を修復

Windows上の「起動を修復」は、Windows自身の起動ディスクへ直接修復を書き込む画面では ありません。「レスキューメディアを作る」からWinPE媒体の準備へ進み、実際の修復は WinPE版で対象ディスクを選び直して行います。

4. WinPE版の操作

WinPE版は予約ジョブを使いません。WinPEを起動した同じセッションでコピー元、コピー先、 イメージを選び、確認、実行、検証まで行います。左側には「ドライブをクローン」 「イメージを作成」「イメージを復元」「起動を修復」「ディスク診断」があります。

4.1 ドライブをクローン

1 コピー元とコピー先を選びます。

2 「通常モード」「救出モード」「MBR→GPT（別ディスク）」「縮小移行 （WinPE / GPT / 512B）」から1つを選びます。同時には選べません。

3 「読取り確認」を押します。コピー元はread-onlyに固定され、安定識別、容量、 セクター、起動中レスキューUSB除外などを確認します。

4 縮小移行では、表示されたパーティションと余剰容量の配分を選びます。必須の Windows起動領域は解除できません。

5 解析結果と消去内容を確認し、確認チェックと大文字OKを入力します。

6 「処理を開始」を押し、読戻しと最終検証まで待ちます。

救出は前方読取り、逆方向、小ブロック、有限再試行を行い、残る未読範囲をゼロ埋め します。縮小、MBR／GPT変換、起動修復は同時に行いません。通常クローンとMBR→GPTは 対象と構成を一意に証明できない場合に停止します。

4.2 イメージを作成

1 作成元ディスクと、別物理ディスク上の新しい.tsumugi保存先を選びます。

2 完全検証（推奨）または高速検証を選びます。

3 故障が疑われる場合だけ「救出モード」を選びます。必要なら暗号化を選びます。

4 「内容を確認」を押し、表示された内容を確認します。

5 大文字OKを入力して「作成を開始」を押します。

現在のWinPE製品UIから作成できるのは通常exactまたは救出.tsumugiです。縮小 .tsumugi作成と任意パーティションだけの作成は、この公開前検証候補のWinPE画面には ありません。救出作成では別ディスクにRAW一時領域と最大イメージの両方の空きが必要です。

4.3 イメージを復元

1 「イメージを選択」から既存.tsumugiを選びます。

2 暗号化されている場合はパスワードを入力し、「完全検証」を実行します。

3 ディスク全体、または画像内の個別パーティションを選びます。

4 復元先ディスクを選びます。個別復元では既存区画または未割当領域も選びます。

5 「上書き内容を確認」を押し、対象、イメージ媒体、作業領域が相互に分離されている ことを確認します。

6 大文字OKを入力して「復元を開始」を押します。

通常、縮小、救出イメージを識別し、方式に合う復元経路だけへ進みます。救出イメージの 欠損範囲はゼロ埋めされ、結果は「一部欠損」です。縮小全体復元では、復元先、イメージ 媒体、起動媒体のdata作業領域を互いに分離できない場合に停止します。 縮小.tsumugiは、欠損がなく論理セクターが512バイトの場合にディスク全体だけを復元し、個別パーティションへは切り替えません。

4.4 起動を修復

1 修復対象ディスクを1台選び、「自動解析」を押します。

2 検出されたWindows、GPT／MBR、ESP／Active領域、WinRE、第三者EFIを確認します。

3 Windowsが複数ある場合は、登録対象と優先順、または1つだけを選びます。

4 第三者EFIローダーは保持が既定です。削除は専用確認で明示した場合だけ行います。

5 「このPCで使用する」と明示した場合だけ、条件を満たす現在PCのUEFI NVRAM修復を 計画します。他PC向けディスクでは現在PCのNVRAMを変更しません。

6 ESPまたはBIOSシステム領域がなく、安全なNTFS縮小で作成できる場合は、別の 大文字OK確認後に領域を作成します。その後、再解析して修復内容を再確認します。

7 最終計画、退避、変更範囲を確認し、大文字OKを入力して実行します。

修復ではMicrosoft署名済みBCDBootによるBCD新規再構築、起動ファイル、必要な属性、 UEFIフォールバック、識別できるWinREを扱います。WinREを一意に特定できない場合は 通常起動だけの「一部修復」となります。修復完了は実機の起動成功を保証しません。

5. 一時停止、再開、取消、単一中断スロット

5.1 同じ起動中の一時停止

- クローン、イメージ作成、復元の「一時停止」は、検証済みの安全な境界でだけ有効に なります。「一時停止不可」の間は押せません。
- 押した直後ではなく、現在の安全単位が終わってから「一時停止」になります。
- 一時停止後は同じボタンの「再開」で続行します。
- 「安全に取り消す」は、取消可能な境界まで進んでから停止します。最終メタデータ確定 などの短い区間は取り消せません。
- 強制終了や電源断を安全な取消の代わりにしません。

5.2 再起動を越える単一スロット

永続中断情報はEXE隣data\active.checkpointの1件だけです。新しい書込み操作を始める前に slotが空であることを確認し、空でなければ別操作を開始しません。ジョブ一覧、予約実行、 自動実行はありません。

- 永続再開を製品UIから実行できるのは、現在はWinPE版の通常exact／救出イメージの ディスク全体復元だけです。
- 起動時に「前回中断した復元があります」と出た場合、「はい」で再開準備へ進みます。 同じ.tsumugiと同じ復元先を選び直し、イメージ、対象、出力、作業領域のexact identityと 復元計画が完全一致した場合だけ再開します。
- 差替え、接続変更、unknown、corrupt、orphan、identity mismatchでは再開せず、何も 自動削除しません。
- Windows版は現在、永続checkpointから処理を再開するbackendを持ちません。起動時は slotをそのまま残すか、完全に拘束された所有対象だけの破棄確認へ進めます。

5.3 破棄

「破棄」が削除するのは、再確認したactive.checkpointと、そこに明示的に結び付いた アプリ所有の未完成出力だけです。.tsumugi完成ファイル、復元先ディスク、旧ジョブ、 利用者ファイル、他の履歴は削除しません。表示後にidentityが変わった場合は破棄も拒否します。

6. 完了後の電源操作

完全な成功証拠が揃い、自動スリープ防止を解除できた場合だけ「完了後の動作」が表示されます。

- Windows版: 「何もしない（既定）」「スリープ」「再起動」「シャットダウン」のうち、 現在のPCで利用可能なもの。
- WinPE版: 「何もしない（既定）」「再起動」「シャットダウン」。スリープはありません。

電源操作は、選択画面と最終確認の2段階です。「何もしない」またはキャンセルを選んでも 完了結果は変わりません。電源要求に失敗した場合も、直前のクローン、イメージ、媒体の 検証済み結果は取り消されません。失敗や取消、欠損のみの結果では電源操作を提示しません。

7. ADK、レスキューISO、レスキューUSB

7.1 Microsoft配布物について

Portable ZIPには、Windows ADK、WinPE、WIM、ISO、CAB、Microsoft製EXE／DLLを 同梱しません。レスキューメディアは、利用者のPCにある検証済みローカルADK／WinPEから 作成します。WindowsやMicrosoft製品のライセンスを本製品が付与・移転するものではありません。

7.2 現在のADK管理状態

「レスキューメディア」で作成環境を確認し、要件不足なら「ADK導入ガイド／再確認」を 開きます。画面には次の4操作が表示されます。

- 固定Microsoft公式URLから取得・導入
- 検証済みオフラインレイアウトから導入
- 公式オフラインレイアウトを新規作成
- Tsumugiが導入したADKだけを削除

ただし、この1.0.0-internal-beta候補では無予期再起動なしのリリース証跡が未確定で、 ADK管理の安全ゲートは閉じています。各項目を選んでも停止理由を表示するだけで、通信、 フォルダー参照、EULA取得、UAC、installer、導入、layout作成、削除を開始しません。 ダイアログ内の「Microsoft公式のADK案内」リンクだけは、利用者が明示的に選んだ場合に 既定ブラウザーで公式案内ページを開きます。パッケージの自動取得・導入は行いません。

ゲートが将来開く場合も、固定Microsoft bootstrapの署名・版・SHA-256を検証し、ADK固有 EULA全文を末尾まで表示して利用者が明示同意した後だけ取得・導入へ進む設計です。 Microsoftの利用条件へアプリが代理同意することはなく、削除対象は同じmanifestの固定 管理記録でTsumugi自身が導入した構成だけです。現候補でこれらを実行可能とは扱いません。

7.3 導入済みADKからISOを作る

検証対象版のDeployment Tools、WinPE Add-on、必須更新が既に導入され、環境診断に 合格した場合に限り、現在の製品UIからISO作成へ進めます。

1. 「レスキューメディア」で「作成環境を確認」を押します。
2. 媒体種類をISOにし、2011 CA（互換重視）または2023 CA（最新PC）を選びます。
3. 新しいISO保存先を選びます。既存ISOは上書きしません。
4. 作成内容と管理者要件を確認し、最終確認へ進みます。
5. WIM構成、日本語フォント、Y-TEC製payload、manifest、全ファイルHash、ISO全量Hashの 確認が完了するまで待ちます。

完成ISOは実際に起動できることを意味しません。この公開前検証候補では代表実機のPE起動受入が 未完了です。

7.4 USBを作る

1. 8GiB以上、できれば16GiB以上の消去可能な試験用USBを接続します。
2. 媒体種類をUSBにし、2011 CAまたは2023 CAを選びます。
3. USB対象をモデル、容量、接続方式、シリアル末尾で確認します。
4. 初回または未知USBでは「全体を初期化」を選びます。検証済みY-TEC USBだけは、 所有情報が一致した場合にデータ領域を保持して起動／アプリ領域を更新できます。
5. データ領域をNTFS（既定）またはexFATから選びます。既定構成は4GiB FAT32起動領域と 残容量のデータ領域です。
6. 消去範囲を再確認し、大文字OKを入力して開始します。
7. 全ファイルのSHA-256検証完了まで待ちます。

WinPE自身が起動しているUSBの物理ディスク全体は、クローン、復元、救出の書込み対象から 除外されます。データ領域は、条件を満たす場合にイメージや作業領域として使用できます。

8. ログ、サポートZIP、更新確認

8.1 ログ

- Windows版の永続ログはdata\logsへ保存します。
- 通常ログは30日または合計200MiB、失敗ログは最長90日を上限に循環します。
- 完全なシリアル、パスワード、派生鍵、BitLocker回復キー、Windows製品キー、Cookie、 資格情報、ファイル内容を記録しません。パスは最小化します。
- WinPE画面には各操作の結果とエラー詳細が表示されますが、現在の公開前検証候補ではWindows版と 同等の「ログ・診断／サポートZIP」画面はありません。必要な証跡は個人情報を除いて保存し、 実ディスクイメージや秘密情報を共有しないでください。

8.2 サポートZIP

1. Windows版の「ログ・診断」を開きます。
2. 「サポートZIP保存」を押し、新しいローカル保存先を選びます。
3. 追加マスク後の含有ファイル名、サイズ、除外件数を確認します。
4. 問題がなければ作成します。ZIPは完全検証後に完成名へ確定され、自動送信されません。
5. 共有前にもう一度内容を確認します。未編集のログ、個人情報、顧客情報を公開Issueへ 投稿しません。

8.3 更新確認

「ログ・診断」の「更新を確認」を押した場合だけ、固定Y-TEC HTTPS URLへ接続します。 起動時の自動確認、バックグラウンド通信、自動ダウンロード、自動更新、自動実行はありません。 結果には版、公開日時、配布ページ、SHA-256が表示され、配布ページを開くかを利用者が選びます。

製品が許可するネットワーク通信は、リリースゲート通過後の明示同意付きMicrosoft ADK取得と、 この手動更新確認の2経路だけです。テレメトリ、広告、クラウド同期、ログ自動送信はありません。

9. 既知の制限と公開前検証候補の停止条件

- 代表実機でのWindows通常クローン修正版、小容量SSDへの縮小移行、WinPE直接クローン、 データディスクのイメージ作成・復元、実USB作成・起動は最終受入が未完了です。
- 過去のSATA SSDからUSBケース内SSDへの試験では複製と換装後起動に成功しましたが、 製品完了判定が失敗しました。修正後の同構成再試験までは合格扱いにしません。
- ソースコード、合成試験、VM、過去候補の成功は、現在の候補や物理媒体の安全性を 保証しません。
- ADKの公式取得、EULA同意、quiet導入、offline layout、管理対象削除は、現候補では 安全ゲート停止中です。
- 過去の2026-08-28の記録では、.tsumugi v1 Golden corpus、2,000,176件の決定論的Fuzz、300秒のcoverage-guided Fuzz、通常／静的解析／ASanの全127 CTest、Codex Security差分監査は完了しています。 これらは履歴証跡であり、今回の再実行結果ではありません。代表実機、実USB、4Kn、 換装後起動の代替にもなりません。旧VirtualBox手順を現在のVMware環境へそのまま適用しません。
- 2026-08-28のローカルPortable候補は22ファイル、Microsoft payload非同梱、内部Hash、 外部ZIP SHA-256の監査に合格していますが、未署名・未公開です。
- Windows版の任意パーティションだけのイメージ作成と、WinPE版の縮小イメージ作成は 現在の製品UIから選べません。

- 通常クローンは同じ論理セクターサイズを要求します。4Knおよび512系と4Kn間の条件付き 経路は代表実媒体で未確認です。
- BitLockerは未保証の詳細機能です。回復キー、パスワードを保存・送信せず、暗号化回避や コピー元の完全復号のための書込みを行いません。
- Windows 7／8系ディスクは未保証、Windows 11 26H1 x64、ARM64、32bit、Windows Serverは 正式対応外です。
- 完了表示は書込み・検証結果であり、換装後起動、特定ハードウェア互換性、データ復旧、 業務継続を保証しません。
- 1.0.0-internal-betaを正式版1.0.0として配布、案内、実運用しません。

異常な物理I/O、コピー元への書込み疑い、対象の取り違え、予期しないonline化を確認したら、 ただちに新しい操作を止めます。対象を変更せず、秘密情報を除いた最小限の証跡を保存し、 次の非公開経路から報告してください。

10. セキュリティ上の問題を報告する

再公開後、GitHub Private Vulnerability Reportingが有効になっている場合は、非公開フォームを使用します。

https://github.com/ytec-forge-commits/ytec-disk-clone/security/advisories/new

フォームが利用できない場合の連絡先: https://ytec.cloudfree.jp/forge/contact/

公開Issueへ脆弱性の技術詳細、PoC、ログ、画像、完全なシリアル、ディスクイメージ、 回復キー、パスワード、認証情報、個人情報を投稿しません。フォームが使えない場合も 公開Issueで連絡要求を行わず、上記お問い合わせから秘密値を含めない概要だけを連絡してください。 フォームへ実ディスクイメージ、回復キー、認証情報を添付しません。

11. ライセンス、利用条件、公式版の区別

- Y-TECが著作権を持つソース、文書、ビルド成果物はApache License 2.0です。
- LICENSE、NOTICE、THIRD-PARTY-NOTICES.txt、licenses、SBOM.spdx.jsonを確認してください。
- Apache-2.0と第三者ライセンスに従う限り、利用、改変、複製、再配布が可能です。
- 第三者ビルドや改変版は、Y-TECが明示的に認定しない限りY-TEC公式ビルドではありません。 名称、表示、配布元、変更内容を明確にし、TRADEMARKS.mdに従って公式版と区別してください。
- Windows、ADK、WinPEその他のMicrosoft製品のライセンスは本製品に含まれず、認証回避も 提供しません。
- 公開前検証候補の安全条件、保証、サポート範囲は同梱の「利用規約.txt」を確認してください。 現在の利用条件は人間による最終法務レビュー前の公開前検証候補向けドラフトです。
- Apache License 2.0または第三者ライセンスが認める権利を、利用条件で追加制限しません。

関連文書:

- README.md
- DiskClone_Development_Spec.md
- SECURITY.md
- TRADEMARKS.md
- packaging/terms-of-use.txt
- packaging/privacy-and-network.txt
- packaging/safety-and-limitations.txt